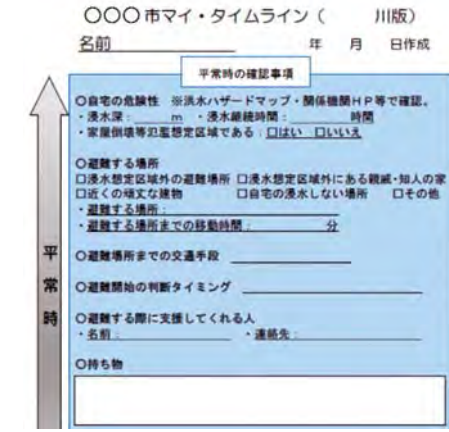


Q&A

Q 洪水対応タイムライン（防災行動計画）について、国管理河川の他県管理河川についても策定が進んだ（現在、8河川7タイムライン）。マイタイムラインについて同時期に取組が図られるものと期待していた。重要性については認識があることから推進すべきである。

A マイタイムラインについては、台風・洪水に対しての地域環境や生活環境を踏まえ、避難に必要な情報や判断、行動を時系列に整理する行動計画である。防災の関心を高め、災害時の適切な行動に役立つ非常に重要な取組と認識している。市では今年度中の完成を目指し、ハザードマップの改訂を進めており、最新版ハザードマップに掲載することで、「自宅の災害リスクとあわせ確認できるメリットもあり、市民により効果的な「マイタイムライン」の作成をしていただくと考えている。



（ふかや市議会では、CD版を発行しています。送付を希望される方は市社会福祉協議会（TEL 573-6563）へご連絡ください。）

Q&A

Q 道の駅かわもと・農産物直売所を拡張できないか

A 直売所を運営しているふかや農業協同組合と相談する



Q 川本農産物直売所は、開設30数年経過したが、年間売上げ、来客数は、開設以来横ばいである。アウトレットの開業に伴い、来客数が多く見込まれ、それに加え売り上げの増加にもつながることから、現行の「道の駅かわもと・農産物直売所」の北側の12,000平方メートルを超える土地を利用して、拡張を望む。

A 「道の駅かわもと」は、平成元年に農産物直売所を竣工し、その後、平成12年に道の駅として登録され、敷地面積が5,872・72平方メートル、駐車場台数66台となっている。現在、農産物直売所は、ふかや農業協同組合が使用しており、売場面積307・25平方メートル、温室192平方メートル、その他、埼玉県が管理する休憩所が60・48平方メートル、トイレ45平方メートル、深谷市が管理する物産館が250・91平方メートルとなっている。令和4年の



マイタイムライン（避難予定表）推進を図るべき

今年度中改訂のハザードマップへ掲載し推進を図る

Q 市洪水対応タイムラインがHPに掲載され、冒頭、「水災害の発生に対し、いつ・誰か・何をするのかに着目し、河川事務所等、深谷市市民等がそれぞれのような行動をとるのか」と記載されている。行政としてのような行動・対策をとるのかが整理できても、マイタイムラインの取組がなければ、タイムラインの自体が完了できない。

A 完成次第、広報・HPでの周知、各家庭へ配布し、防災訓練や地域の集會等の機会に積極的に向き、ハザードマップの周知、啓発してマイタイムライン作成を促進していく。

Q コロナ禍における小学校と学童との連携は

A 連絡方法を確認する等、丁寧な対応に努めている



Q コロナ禍の中、小学校と学童の密な連携で、児童の変調を一時でも見失わないように努めてほしい。

A 年度当初には、互いの代表者で緊急時の連絡方法を確認し、学校の情報は「連絡メール」を通して学童保育室職員に届くようになっていく。また、公立・私立関係なく、ほぼ同様の対応ができていく。これからも互いが丁寧な連携に努めていく。

Q 大災害を想定して、家族人数×3リットル×7日分の蓄えが必要と聞くが、本市は7日間断水復旧は可能か。

A 蓄えの目安は物資の安定供給が途絶えることを予想しての数字と捉えるが、大災害時は緊急性の高い場所から優先し、可能な限り短期間で市内全体の復旧に対応していく。

市内の道の駅直売所の現状と売り上げについて伺う

市内3カ所すべてが前年度を上回っている

Q 市洪水対応タイムラインがHPに掲載され、冒頭、「水災害の発生に対し、いつ・誰か・何をするのかに着目し、河川事務所等、深谷市市民等がそれぞれのような行動をとるのか」と記載されている。行政としてのような行動・対策をとるのかが整理できても、マイタイムラインの自体が完了できない。

A 完成次第、広報・HPでの周知、各家庭へ配布し、防災訓練や地域の集會等の機会に積極的に向き、ハザードマップの周知、啓発してマイタイムライン作成を促進していく。

Q 川本農産物直売所の駐車台数は少ないと思うが。

A 道の駅かわもとで66台、北側の第2駐車場に、直売所などの職員も駐車するスペースとして40台あり、職員分を除くと約20台分が利用者のための駐車スペースとして開放され、合わせて86台分が駐車可能である。

Q 川本農産物直売所の整備予定は。

A 現段階では、農産物直売所を運営しているふかや農業協同組合と今後のあり方について相談していく。



Q 今後の相乗効果について伺う。

A 令和4年の「ふかや花園プレミアムアウトレット」の開業、大河トラマ「青天を衝け」に加え、渋沢栄一翁の肖像が新一万円札になること、また「鎌倉殿の13人」に畠山重忠公が登場することに伴い、それぞれの直売所には、今までの来客が見込まれると考えている。

